

※評価 (A, B, C)

番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
		評価	評価についての説明	評価	評価についての説明	
1	学び合い（協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成）を推進し、思考力・判断力・表現力等、活用力の育成に努めている。	A	教職員相互の理解のもと、研究授業だけに留まらず、平素の授業でも学び合いを推進できた。全学年で、ペア・グループ・全体での交流等、思いを伝え合う姿が見られた。学年が上がるごとに、学び合う力が身につけてきている。	A	授業参観時には、活発に意見を出し合う子どもの姿が見られ、成果が上がっていると感じる。各学級の人数が少ないので、自分を主張したり、他者の考えに傾聴したりする活動を益々取り入れてほしい。	学び合いをキーワードにした校内研究を進めるとともに、研修の機会を持ち、教員個々の授業力向上を図る。各学年でつきたい思考力・判断力・表現力等について、系統立てていく。
2	道徳の授業改善や日々の指導、朝読書等を通して、生命を尊重する心や公共心、公德心等の心情を高めるとともに、道徳的実践力の向上に努めている。	A	副読本を利用するだけでなく、新しい教材での授業改善が進められている。ハッピー月間（いじめ防止月間）等を中心に、命の大切さを考える授業を全校的に実施できた。道徳授業一斉参観日を設けることで、保護者への理解も深まった。普段から、全教職員で全ての子どもたちに声をかけて褒め伸ばすよう心がけ、道徳的実践力の向上に努めた。	A	道徳の授業が、建前ではなく本音で語り合えるものとなってほしい。そのために、何でも話せる学級の雰囲気づくりを進めてほしい。地域や家庭との連携を進めることで、あいさつや掃除等の習慣も確立していくと思うので、学校からも協力要請してほしい。	「特別な教科道徳」の実施を契機に、道徳授業改善に取り組む。そのために、教員が互いに授業公開し、道徳的価値観を高める支援や教材に関する研修を行う。また、子どもたちの道徳的な言動を見つけ、職員間で情報共有することで指導に役立てる。
3	体育授業の工夫改善を図るとともに、日常的な遊びや行事の中で、子どもの体力向上に努めている。	B	体育部中心に、授業改善を行っている。また、縄跳びランキング、委員会主催のチャレンジカップ等、子どもたちが自発的に取り組める活動を設けた。だが、以前に比べ外遊びをする子が減っている。さらに遊びの紹介を行い、運動を促す必要がある。	B	地域でも、子どもたちが外で遊ぶ姿は少ない。体を動かす地域行事も検討したい。運動会での組立体操等、安全面に配慮しながら、完成度の高い演技ができていた。今後も、子どもたちが達成感を持つよう指導してほしい。	体育科の授業改善、外遊びの励行を体育部中心に行う。体育の宿題については、子どもたちがどの程度取り組んでいるのかを調べたり、子ども自身がチェックするような工夫をしたりしながら進めていく。
4	職員研修、OJT等に主体的に参加し、板書やノートの工夫、ICTの活用など、学力向上のための工夫改善を進めている。「働き方改革」を意識し、校務の効率化に取り組んでいる。	A	外国語教育や特別支援教育、いじめ防止やICTの活用方法、OJT等の職員研修を行い、積極的に研鑽を積むことができた。放課後個別指導「だらっこタイム2」を通して、基礎基本の定着に努めることができた。働き方改革については、不祥事防止や超過勤務対策、業務の効率化等、職員同士でアイデアを出し合い、進め始めたところである。	A	授業参観時に、デジタル教材、タブレット等が授業の中で活用され、子どもたちの理解や活動を助けている様子が見られた。働き方改革は喫緊の課題だが、小規模校なので個々の仕事量は多く大変だと認識している。	「めあて」「まとめ」等の板書、ノート指導を今後も続けながら、子どもたちが学習内容を自覚できるようにする。「だらっこタイム」を通して、漢字や計算等の基礎学力の定着を図っていく。ICTに関する研修も引き続き行う。働き方改革については、校務分掌を整理し、能率化を図る具体案を探っていく。
5 ①	懇談会や通信、学校HP等で情報発信し、保護者や地域の理解と協力を得られるよう努めている。安全・安心な学校をめざし、防災教育、安全教育を進めている。保護者や地域人材を活用した教育活動に取り組んでいる。	A	どの学年も通信を細かに発行し、保護者への情報発信を積極的に進めている。学校HPも随時更新することができた。山中太鼓体験、森林環境学習、防災体験学習、昔遊び等、保護者や地域の方の支援、協力により実現することができた。	A	少ない教職員にも関わらず、情報発信の努力をしている。今年度は、新しく「山中太鼓」や「だらっこの森整備」等、地域や保護者と連携した取り組みが見られてよかった。今後も、学区ならではの取り組みを進めてもらいたい。	今後も、各通信や学校HP等で、学校情報を積極的に発信していく。来年度は、「コミュニティ・スクール」となる予定である。今年度以上に地域や保護者との連携を密にし、特色ある教育活動を推進していく。
5 ②	保幼小中間の子どもたちの交流や合同行事、出前授業、教職員間の授業公開・合同研修等、保幼小中連携の推進に努めている。	B	やまのこひろばの行事を見学する等の連携に努めた。3、4年生の「ニコニコ会」、5年生の「5・5交流」を通して、やまのこひろば園児への理解が深まった。保幼小間の研修は、日程調整が難しく、活発とは言えない。	B	同敷地内にあることを生かし、スムーズに活動を進められている。特に、普段から出会った時に声をかけ合えるほどの関係を築けたのは評価できる。園児と共に植物を栽培するのは有意義である。来年も取り組んでほしい。	引き続き、やまのこひろばとの連携の推進に努めていく。教職員同士の研修については、担当による調整を早めに行い実現させる。皇子山中中学校区内の6年生が集う「OSK会議」を推進する。

6 ①	いじめや問題行動の日常的な予防と早期発見・早期対応するための生徒指導体制や教育相談体制を確立し、いのち・人権の尊重、6つの約束の徹底などに取り組んでいる。	A	いじめ疑い事案が起こった際には、迅速に対応し、保護者と連携をとりながら対応することができた。いじめ対策委員会の場だけでなく、気になることを全教職員で共有する等、情報交換が十分に行われている。疑い事案は、後半ほとんどなかった。	A	いじめ疑い事案が減ったのは、教職員が子どもたちの言動に敏感だった結果であり評価できる。今後も、週1回の「いじめ対策委員会」を続け、全教職員による早期発見・早期対応をお願いしたい。	週1回の「いじめ対策委員会」、毎月我的生活アンケートを継続し、常に危機意識を持ちながら対応していく。解決したと思われるケースも、その後の様子を全職員で見守っていく。
6 ②	組織体制の確立、関係機関と連携した相談体制の充実等、子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育に取り組んでいる。	A	教職員で情報を共有し、学校全体で支援を必要とする子どもを見守っていく体制構築に尽力し、手厚くフォローすることができた。担当教員が中心となって、子どもの特性に合った支援計画づくりを進めることができた。	A	学級には色々な子どもがいる中で、担任が全てに対応していくには限界があると思う。教育相談、職員研修、情報共有もよく行われているので、今後も、組織的な対応をお願いしたい。	週1回の職員間情報共有を継続する。関係機関との連携強化を進めながら、保護者との相談、個別の指導計画作成と活用、個に応じた対応等について、組織的に進めていく。